P＆Aいしかり
活動広報
第２２号
2017年12月15日

どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！
障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

P＆Aいしかり事務局　http://p-a-ishikari.jimdo.com/
石狩市障がい者支援センター（石狩市樽川519-2）
TEL　0133－73－8868　FAX　0133－73－8869
発行責任者　佐々木公子

自主上映 in いしかり開催!!

去る１１月２６日（日）石狩市花川北コミュニティセンターにおいて、映画「さとにきたらええやん」In いしかり自主上映会を開催し、６９名の皆様が来場されました。オープニングでは釜ヶ崎が生んだヒップホップ・アーティストのＳＩＮＧＯ☆西成のラップ「諸先輩からのお言葉 」が流れ、日雇い労働者の街釜ヶ崎をジョウ君が自転車を乗りまわし、人情の町・釜ヶ崎に咲く、涙と笑いあふれるドキュメンタリーがはじまりました。

♪♪ 近所のおっちゃんに習った～～♪　♪♪ここではこうして生きなさい～～♪
♪♪ 近所のおっちゃんに習った～～♪　♪♪ここではこうして生きなさい ～～♪

大阪市西成区釜ヶ崎４０年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、０歳からおおむね２０歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子、そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。この映画では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿が映し出されました。

上映が終わってから多くの皆様から感想が寄せられました。いしかりで上映を進める会の皆さんと上映できたことは、あらためて良かったと思います。今でもその余韻が続いています。

♪♪ 心とフトコロが寒いときこそ胸をはれ～～♪
♪♪心とフトコロが寒いときこそ胸をはれ～～♪

メイン上映会場

主　催：映画「さとにきたらええやん」in いしかり自主上映を進める会
構　成：P＆Aいしかり（石狩市手をつなぐ育成会・石狩市障がい者支援センター保護者会・社会福祉法人はるにれの里）、NPO法人こども・コムステーション・いしかり、有限会社アット、NPO法人ジェルメ・まるしぇ、石狩トーク☆クラブ、子どもの居場所づくり　レタッタ
共　催：石狩市
後　援：石狩市教育委員会、石狩市社会福祉協議会

特設上映会場

『さとにきたらええやん』
重江良樹 監督　インタビュー

監督：重江 良樹（しげえ　よしき）

1984年、大阪府出身。ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業後、映像制作会社勤務を経てフリー。
2008年に「こどもの里」にボランティアとして入ったことがきっかけで2013年より撮影し始める。
本作が初監督作品。

西成・釜ヶ崎＝危険な街という偏見を持っていた。
「何でこんなところで子どもの施設をやってるんですか？」

Q：本作を撮影するきっかけは何だったのでしょうか？

映像学校在学中に何か社会性のあるドキュメンタリーを撮りたいと思い、おもいつきで釜ヶ崎の街に行ったら「こどもの里」と出会いました。こどもの里の前を通り過ぎようとすると、中から半裸で裸足の子どもが二人「バァー」っと飛び出してきて嵐のように再び中へ。呆然とその光景を見ていて気づけばこどもの里の中へ入っていました。「西成・釜ヶ崎＝危険な街」という世間一般の偏見を思いっきり持っていた僕は訳が分からず「代表者の方を呼んでください」と言って、荘保さんに「何でこんなところで子どもの施設をやってるんですか？」といきなり来て無礼な質問を繰り返していたら「子どもが好きやからです！」と一蹴されました。夏休み中の昼下がり、今思えば忙しい時間帯でしたので…。
その後すぐ帰るのもなんなので、1階のホールで小中学生たちが野球しているのをずっと見ていたら「一緒にやろうや」と遊びに誘われました。結局閉館時間まで遊んでしまい、なんかすごい楽しかった事を覚えています。

自分の大事な場所、大好きな子どもたちを
撮るからには中途半端にはしたくない

Q：「こどもの里」で撮影をし始めて、実際はいかがだったでしょうか？

最初のうちは構成も何も考えていなかったので、目の前で起こったことを何でもかんでも撮っていました。子ども達のケンカで泣いている子にカメラを向けた時に「こんなとこ撮ったんなや！」と低学年の子に怒られた事もありましたが「自分の大事な場所の大好きな子たちを撮るからには中途半端にはすまい」という思いだけで撮影していました。
撮影を始めて半年が過ぎ、メインで撮る人たちもある程度絞れてきた所で自分はどの程度撮れているのか？と思い親交のあった小谷忠典監督に撮影したテープを見せた時、「カメラと人物の距離が遠い。もっともっと関わらないと。その人の人生の一部を撮らせて頂いてるんだから。こんな撮影してたら何も伝える事ができない」と言われてハッとしました。無意識のうちに、緊張感のある場面では対象者の方と距離を取っていて、その場の空気を壊さないようにと勘違いしていたんです。もちろん空気感はとても大事ですが、何かを撮るという事は何かを人に伝えるためであることを改めて気づかされて、撮らせて頂いてる方々にもすごく失礼な、中途半端な事をしていると気づきました。それからは相手が嫌だと言わない限り、適切な距離で撮影するようになりました。

配給：ノンデライコ『さとにきたらええやん』簡易プレス資料より

Q：登場する子どもたちの表情がとても豊かです。主要な３人の子どもたちを選んだ理由はなんでしょうか？

こどもの里は、通いの子が来る遊び場としての学童保育事業（撮影時は子どもの家事業）。親や子ども自身から依頼される緊急一時宿泊、児童相談書が親子分離の長期化を判断し委託するファミリーホームがあります。荘保さんがこどもの里を遊び場として始めて、長期で働きに飯場に出る親や、そのために児相に預けられ通学出来ず遊ぶ事さえ出来ない子ども、家出する子ども達など、その時々のニーズに合わせていくことで今のこどもの里になっていったそうです。それを聞いた時、ずっと現場の肌感覚でやってきて、それが子ども達のためになってきているというのがすごく魅力的で、そういう事を考えながら撮っていたら今回の３人の子たちとなりました。

音楽：SHINGO★西成(しんご　にしなり)

大阪府大阪市西成区出身のラッパー。昭和の香りが色濃く残る“ドヤ街”、西成の釜ヶ崎・三角公園近くの長屋で生まれ育つ。90年代半ばよりライヴ活動を開始。
2005年よりCDリリース、地元での平坦ではない生活をリアルな言葉でつづり、精力的にライブ活動を行っている。節目となるワンマンライブでは、通天閣下のTUDIO210（現在は閉館）や、笑いの殿堂としておなじみのなんばグランド花月など、地元の色濃い場所にて開催。三角公園の炊き出しや西成WAN、堀江ゴミ拾いなど、「自分のまちは自分でつくる」を体現しつつ、現在ニューアルバム制作中。

地域が変われば、子どもが変わる
豊島子どもWAKUWAKUネットワーク　東京都豊島区

こどもの里館長の荘子さんが、西成のこどもの里の取り組みをお話しされたんですね。もう私びっくりしたんです。
こんな人がいるんだ。何十年も前から、しんどい子供たちに寄り添って、暮らしをまるごとサポートしている人がいて目からうろこだたんです。でもすごく勇気をもらいました。荘子さんのようにはなれないけれども、その中で私たちでも何かできることはあるんじゃないか。
できないことを数えるよりも、その中でできることを探して取り組んでいこうよ。そんな仲間が、豊島子どもWAKUWAKUネットワークをつくりました。

豊島子どもWAKUWAKUネットワークのキャッチコピーは、「地域を変える　子どもが変わる　未来を変える」。この言葉には、どんな子どもであろうとも生まれた時から等しく持つ、「未来の可能性」への思いが込められています。

「貧困も虐待も連鎖します。けれど、子どもは変わることができると私たちは思っているんです。『子どもを変える』じゃなくて、『子どもが変わる』。それには、まず地域が変わらなくてはいけません。地域を変えることによって、子どもが変わっていくんです」

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
理事長　栗林知絵子さん

来場された皆様からのご感想!!

大阪出身なのでとてもよくわかります。大阪は、被差別部落や在日朝鮮人など多くの問題があります。だから、多くの人が、ボランティアで自宅を開放して子どもの居場所を作っていたような気がします。ホームレスの方の「生きててもつらいだけ」という言葉は、子ども達にどう伝わったのでしょうか？マユミちゃんの給料は、きっとお母さんのギャンブルに消えると思いますが、それはマユミちゃんが自分で気づくまで仕方のないことだと思いました。現実はそう何も変わらないことの方が多いけれども、デメキンきんの生き方にとても感動しました。

今回、釜ヶ崎という地域について取り上げた映画を見て、イメージとして日雇い労働、ホームレスというイメージが浮かんだが、児童福祉的な視点から、公的ではなく、ボランティアという分野からさまざまな課題のある家族を応援し、里と関わる子ども達に人としての大切なものを教えていく取り組みに感動しました。貧困は連鎖するというデータもあるが、人との関わりでその後は選択が広がると感じました。

ありがとうございました。みんなみんな人とつながって生きているんだね。

とても見ごたえがありました。かけがえのない里、そんな場所がいしかりにもふえたらいいと思いました。

自分も障害者とのかかわりの有る仕事をする上で勉強になりました。今一度、自分の役割を考えてみる機会ができました。ありがとうございました。

里で育った子ども達が、いろいろな経験を通し大人になっていく姿が良かった。

一人一人の生き方を考えさせられました。デメキンさんの話で昔も今も生きることに変わりはないと感じました。

こんなに頑張っている子ども達がいることを知りました。先生方の力も大変だなと。こういう機会がもっとあったらいいと思いました。

今回の映画を見て思ったことは、自分の子どもに見せてあげたいと思いました。小学校5，6年や中高生などの子どもたちが、この映画を見て、どんなふうに感じるかを知りたいです。同じ日本でも、自分たちとは違った生活をしていることを知ってほしいと思いました。

さとにきたらええやん

一人一人の生きる条件が違っても、一人一人の人を大切に、それぞれができれば、もっと違った社会になれるのにと思います。人生に条件が悪いことがあるとき、頼っていける場所が沢山あると良いですね。とてもよい映画を見せて頂きました。

大変、内容も良かったです。家族でなくても、地域のコミュニティが子どもの居場所になるということをあらためて感じました。このような機会をいただいたP&Aいしかり、他関係者に感謝を申し上げます。

わかりやすく良かったです。

ステキな映画上映をありがとうございました。とても考えさせられる時間でした。いろいろな場所に相談できる、居場所となるところがある。そんな温かい街が広がっていくことを切に願います。

人は環境によって変わっていくということが映画を通して再認識しました。自分自身もこれからの生活に生かして行きたいと思います。劇中歌の「切花の一生」が良かったです。

良いものを観せて頂きありがとうございます。どんな困難の中でもペーソスを忘れないのは、大阪ならではですね！

大変感動しました。親がいながら一緒に住んでいない子、自分の家より里が良い子、私たちは、一つ屋根の下で暮らしていても、必ず幸せとはいえません。そんな中で親から離れて生活していても、素直に立派に社会人に育てて下さっている皆さんの姿に感銘し、考えさせられました。本当に良い映画に出会えてよかったです。

里のスタッフの活動を見ることができ、感動しました。今日は来てよかったです。また、機会があれば、参加したいと思いました。

とってもためになりました。みんなの頑張っている姿、これからも応援しつづけて行きたいです。

あるお母さんが「子どもに里を選ばれたらしんどい・・・」といってた言葉が、親と子の気持ちを代弁してると思いました。すばらしかったです。里で働くスタッフに頭が下がります。

大人の居場所づくりも必要と感じました。

子どもの里のスタッフや仲間に支えられて成長していく子どもたちの姿が、とても感動的でした。子育てに不安を抱えている保護者や家庭の問題で、子どもも保護者も、どこに助けを求めてよいかわからない状況をなくしていかなければならないと思います。

子どもたちの持っている力をとても感じました。大人も考えさせられ、支えられる面があることをとても感じました。

人間力、地域力を感じる。家庭の悩み、親の悩み、子の悩み、成長しようと乗り越える力—みんなで乗り越える現在・未来のあり方を考えさせられる。協同生活のルールを地域で学び教える社会が大切。年令関係なく、一個の人間は生身だからある意味組織(社会)が必要。思想・ルールの共有作り。

すばらしい映画でした。ありがとうございました。

大人も子どもも一生懸命生きてる姿に力づけられた思いです。

大変感動しました。私たちでボランティアありましたら参加したいし、市でも役に立ちたいと思いますので、市報告で知らせてほしいと思う。ありがとうございました。

さとにきたらええやんを見るのは2度目でした。私は、大学4年生で卒業論文に子どもの貧困について調べており、その中で、子どもの里について研究しています。荘保さんの考えを知った上で、改めて映画を見ると子どもたちにとって子どもの里の存在がどれほど大きいか痛感しました。子どもの里のように子どもたちそして親の居場所を全国にもっと増えていけばいいなと思っています

生き方が様々あるように、個人の困り間や苦労も様々・・・。映画は苦労や困り感を誰かが助けている姿を映しだしていたのではなく、共に生きることの真の姿そのものを全員の視点で見せていたと思う。ありのままに生きる尊さを感じた。人の価値も感じた

いろいろなメッセージが含められた映画でした。里がなかったらここの子どもたち、親の生活は全く違ったものになっていましたよね。大変すばらしい映画上映して頂いてありがとうございました。

行政は何もしないのだろうかと思いました。政治の貧困さを感じます。力と愛と元気をもらいました。

とても良かったです。ありがとうございました。

「心とフトコロが寒いときこそ胸を張れ」(SHINNGO★西成の楽曲)心にひびく言葉でした。

とても学ぶこと、気づくことが多くありました。石狩は日雇い労働者の街ではないから、関係ないのではなく、環境はちがうとも同じ気持ちを抱えている人、子どもがどこにでもたくさんいるのだと思いました。上映ありがとうございました。

上映会開催ありがとうございました。家族、地域にある現実と課題・・・。力強く支え合って行かなければと感じました。

良かったです。西成・あいりんが好きで年に4～5回行っています。彼ら、彼女たちの今が知りたい。

里の子どもやスタッフの方々の目がキラキラしていて感動し、いろいろ考えさせられ元気をもらいました。里に行ってみたい気持ちになりました。子どもや大人がいつでも頼りにできる、あてにできる場所や機会を地域につくっていくことの大切さを改めて感じました。

映画を通して「里」と心がつながれた気がします。気づいたこと(あまり遠い世界に感じて)が多くあります。本当はすぐ近くに。今日は来て本当に良かったです。

子どもの居場所づくり!!
いま、いしかりに生まれています!!

石狩市内では今年に入って３ケ所、新たにこども食堂や学習支援など、子どもの居場所の取り組みが生まれました。

今回の映画「さとにきたらええやん」 in いしかり自主上映を進める会に以下の子どもの居場所づくりに取り組まれている各会の皆さんに参加協力をしていただきました。

・子どもの居場所づくり　レタッタ
・石狩トーク☆クラブ
　トークこどもサロン
・ＮＰＯ法人ジェルメ・まるしぇ
　まるごとこどもＣａｆｅ
・有限会社　アットちるマルシェ
・ＮＰＯ法人こども・コムステーション・いしかり
　マナビーバ

広報いしかり２０１７年７月号に特集で紹介されています。Ｐ＆Ａいしかりのホームページでも今後、紹介していきます。

石狩いきいきフェスタ2017

10月22日(日)　会場：りんくる

子どもの居場所づくりフォーラムが開催!!

このフォーラムでは、はじめに藤女子大学講師の腰元氏からの「子どもの居場所について」のお話と石狩市内の５ヶ所の子どもの居場所づくりに取り組まれている各会の皆さんの活動紹介。そして藤女子腰元ゼミの学生さんから「麻生キッチンりあん」でのボランティア活動等の紹介がされました。

石狩市保健福祉部子ども政策課の青木さん（司会）

藤女子大学人間生活学部食物栄養学科の腰元講師

子ども居場所作りレタッタの菅原さん

有限会社アットの蓮上さん

石狩トーク☆クラブの納谷さん

NPO法人こども・コムステーション・いしかりの伊藤さん

NPO法人ジェルメ・マルシェの道端さん

藤女子大学人間生活学部食物栄養学科腰元ゼミ生のお二人

賛助金のお礼

映画「さとにきたらええやん」上映に際しまして、多くの皆様からご支援を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

法人・団体の皆様からの賛助金につきましては、下記の皆様からご協力をいただきました。

・社会福祉法人たんぽぽのはら様
・株式会社ふれあい様
・NPO法人石狩市手をつなぐ育成会様
・社会福祉法人はるにれの里様

※掲載順不同

個人の皆様からのワンコインの協力金につきましては、下記の団体の皆様からご協力を呼び掛けていただきました。

・北海道星置養護学校石狩紅葉山校舎様
・株式会社ふれあい様・新日本婦人の会様
・ＮＰＯ法人石狩市手をつなぐ育成会様
・社会福祉法人ノンノ様
・石狩市障がい者支援センター保護者会様
・石狩市役所様・社会福祉法人はるにれの里様

※掲載順不同

各団体に所属する個人の皆様以外にも、上映の趣旨に賛同して下さった数多くの皆様からもご協力をいただきました。

賛助金合計額は　９６，２００円となりました。

尚、賛助金総額から必要経費５５，２００円を差し引いた４１，０００円につきましては、石狩市内で子ども食堂や学習支援を通して子どもの居場所づくりに取り組まれている５ヶ所の各会に分配し、役立てていただきたいと考えております。